



平成19年度 第2号
2008年1月10日発行

近畿地方会ホームページ
www.kinkireh.com

日本リハビリテーション医学会 近畿地方会事務局
独立行政法人 労働者健康福祉機構 関西労災病院
リハビリテーション科 住田 幹男
お問合せ先
〒600-8815 京都市下京区中堂寺栗田町93番地
KRP6号館304号
有限会社 セクレタリアット内 近畿地方会事務局
TEL: 075-315-8472 FAX: 075-315-8472
E-mail: office@kinkireh.com



最近では回復期病床を有する病院数が著しく増加し、加えて国からのお墨付きもあり、脳卒中患者に対しては地域連携パスによる病院間連携が盛んに行われており、いわゆる急性期病院から回復期病院への患者の受け入れ体制は整備されてきていると言える。それに対して、脊髄損傷患者の病院間の連携はまだ不十分であり、難渋しているのが現状である。

脊髄損傷は脳卒中と比べれば、患者数も圧倒的に少なく、専門的に扱う医師も少ない。リハビリの分野ではまだまだ関心が低いと言わざるを得ない。最近の統計によると、脊髄損傷の発生頻度は人口100万人当たり40人弱である。発生年齢のピークは2峰性で、20才代と50-60才代である。損傷レベルは頸髄損傷が圧倒的に多く、近年では高齢者の頸髄不全損傷が増加していることが特徴である。例えば兵庫県の人口を500万人とした場合、年間約200人の脊髄損傷の患者が発生し、そのうちの約50%に当たる100人が頸髄損傷である。各県域において、果たしてこれだけの脊髄損傷患者のリハビリをまかなえるのであろうか。

脊髄損傷のリハビリを専門的に扱える施設は全国的にも非常に少なく、現実には各県域にそのような施設は存在しないといってもいいくらいである。結果として、十分に専門的なリハビリを受けないままに在宅に復帰する例が相当数存在するであろう事は予測される事態である。脊髄損傷の治療を論ずる場合、必ずといっていいほど耳にする事柄がある。「手術からリハビリ、そして在宅復帰まで一貫して行うこと事が良い」というものである。脊髄損傷患者にとっては最良の体制であることは論を待たない。しかしながら、このような体制を維持し、実現できるのは九州の総合せき損センターのように、脊髄損傷治療に特化した施設のみが成しえる事である。



脊髄損傷の リハビリ医療について考える

兵庫県立総合リハビリテーションセンター
整形外科兼リハビリテーション科部長
陳 隆明

全国にある大多数の国公立や民間のいわゆるリハビリテーションセンターと言われる施設においては、多種多様な障害を有する患者に対応しているのが一般的である。ごく一部の施設を除いて、特定の疾患群の患者のみに対して特別な体制を取ることは極めて困難であるし、診療報酬の問題からも長期の入院リハビリは不可能な状態である。当センターにおいても例外ではなく、対象としている患者は脊髄損傷のみならず、四肢切断者も全国から受け入れているし、脳卒中や神経難病、さらには関節疾患など多彩である。このような施設において、「一貫した脊髄損傷の治療」というのは理想論に近く、「言うは易し」である。もっと現場の実情にあった議論をし、より良い方策を模索すべきである。

脊髄損傷のリハビリに取り組んでいる施設であっても、頸髄損傷患者に対応できない、あるいは対象としていない場合も少なくない。このような背景に起因してか、当センターでは胸・腰髄損傷患者が減少し、県内のみならず他府県からの紹介も多くは頸髄損傷患者である。当センターの理念は「在宅復帰」であることから、回復期から在宅までを主として担当しているわけであるが、頸髄損傷患者においては住宅改修や地域との連携など色々な手続きを踏まねばならず、入院期間は長期間を要する。当センターにおいても、設備や人的資源は無尽蔵ではなく、限りがあることは言うまでもないことである。

そこで、我々は打開策の一つとして各

病院・施設の役割を明らかにした急性期から「在宅」までのネットワーク連携構想を試案したが、その実現にはまだまだ紆余曲折と時間が必要である。構想試案の要点を簡単に説明すると、回復期病院を更に二つの機能に細分するのである。仮に回復期Aと回復期Bとすると、回復期A病院の役割は、急性期病院より患者を受け入れ、術後の体力低下状態状態を改善し、関節拘縮予防、じょく創予防、座位保持訓練などを行い、「専門的なリハビリ」が可能となるまでをケアし、回復期B病院に連携することである。回復期B病院は、「専門的なリハビリ」を提供できる施設であり、ADLの自立度を高めるとともに、住宅改修や地域との連携を進め、在宅復帰に向けた総合的なアプローチを行う。当然ではあるが、この中で長期間の入院を必要

CONTENTS

- ◆ 特集
脊髄損傷のリハビリ医療について考える 1頁
- ◆ 施設紹介<第4回>
医療法人社団 松下会 東生駒病院 ... 2頁
- ◆ 新専門医の抱負 3・4頁
- ◆ コラム
投稿のお願い 5頁
- ◆ 第24回日本リハビリテーション医学会
近畿地方会学術集会会長挨拶 5頁
- ◆ 第24回近畿地方会開催概要 6頁
- ◆ 日本リハビリテーション医学会
近畿地方会専門医・認定臨床医
生涯教育研修会カレンダー 7頁
- ◆ 編集後記 7頁